

り、さて御國には本牛馬はなかりしを、百濟國より渡し奉たる物ぞと云説あれども、後漢書に  
しと云り、此にかくある上に、八千矛神の所にも、御馬のこと見え、保食神の項に、化爲牛馬こと  
も書紀に見えたるをや、此斑馬は鹿を云な

〔倭名類聚抄十一牛馬毛〕贈馬踏雪馬附 爾雅注云、四骹皆白曰贈音僧俗云、骹謂膝以下也、四躡皆白曰踰音前  
躡、蹄也、俗呼爲踏雪馬、

〔箋注倭名類聚抄牛馬毛〕按四骹皆白贈、四躡皆白踰、是釋畜正文、郭璞注、骹膝下也、又注踰云、俗呼  
爲踏雪馬、無躡蹄也之文、此所引蓋舊注也、又郭本爾雅唐石經宋板本以下諸本、踰皆作首、藝文類  
聚、初學記引亦同、蓋郭所據本作前、因字形相涉、誤爲首也、此引舊注作踰、其字雖俗、亦可以證今本  
爾雅之誤、按玉篇云、踰、馬四蹄白、廣韻云、踰、馬四蹄皆白也、顧孫二家蓋依舊注也、又按元雪牕書院  
所刊、郭注爾雅作踰、然郭注爾雅各本誤作首、則郭本作前、不从馬、與舊注所依本作踰不同、雪牕本  
作踰者、蓋後人依玉篇廣韻改、非郭氏之舊也、

〔書言字考節用集五氣形〕驪 鼠毛馬音順和名、四蹄 踏雪爾雅 踰音  
〔安齋隨筆二十一〕二毛の事 註

大坪流傳書

好玄曰、雲雀毛火性、候はふえんに存候、そのゆへは、かすけとひばり毛とは、此二毛何ノ馬に  
もさす毛にて候得ば、性有間敷と存候、

高忠秘傳書ノ相傳 二毛とはにたり毛と書候、此秘傳はさる毛に似たりよりての事と云々、  
見たりやうは毛色のやうはをなじやうなりへのこあかきはさる毛と云と云々、毛かはるな  
りと云々、

刃毛と云は、又飛々ふちあひのにきあひたるやうなるを刃毛と云、是をば文字には二毛とか